



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4199号 2018.2.7 発行

### 「バリバラ」 セサミとコラボ…発達障害のキャラクターも初登場



デイリースポーツ 2018年2月6日  
NHK大阪放送局はEテレで11日に放送する「バリバラ×セサミストリート」（後7・00）の概要を6日、発表した。「セサミー」に登場する自閉症のキャラクター「ジュリア」も日本で初めて登場する。

「バリバラ」と「セサミー」がコラボした同番組では「発達障害」を取り上げる。

アメリカで放送されている子ども向け番組

の「セサミー」は、障害児や移民の子らをキャラクターとしてとり入れ、多様性の大切さやマイノリティーに光を当ててきた。同局関係者によると、「バリバラ」と番組としての親和性が高いこともあり、両番組の制作陣の交流からコラボが実現した。

番組では「ジュリア」やセサミに登場する「エルモ」が、友達とのコミュニケーションに悩む小学生の女の子を応援。「学校で過ごしやすくなるよう」、特性や思いなどをクラスメートに伝え、互いを理解するきっかけを作っていく。

番組関係者によると、「ジュリア」の登場に際して、アメリカの制作スタッフも来日し準備にあたった。アメリカでは昨年4月から「ジュリア」がパペットとして登場していたが、コラボにあたって日本の発達障害の専門家も交え、パペットのベースとなる動きを定めていったという。

番組には発達障害を公表しているモデルで俳優の栗原類も出演し、自身の経験を交えながら「友達とのコミュニケーションの難しさ」を話した。

### 真備のNPOがドレッシング販売 ガーデンハックルベリー 使用 山陽新聞 2018年2月6日 売り出されたガーデンハックルベリーのドレッシング

NPO法人いちご一会（いちえ）（倉敷市真備町有井、内藤桃代理事長）が運営する障害者の就労継続支援B型事業所「いちごの家」（同所）は、ガーデンハックルベリーを使ったドレッシング3種を開発し、販売を始めた。

ガーデンハックルベリーは実の大きさが直径1センチほどで、疲労回復などに効果があるとされるアントシアニンがブルーベリーの4倍以上含まれるという。内藤理事長らが2年前、知人からガーデンハックルベリーが健康に良いと教えられ、真備町地区にある畑で栽培を始めた。

生のままでは甘味がなく、一般には砂糖を加えてジャムに



加工しているが、素材を生かしてドレッシングにしよう企画。昨年秋から本格的に開発に着手し、果汁と酢に、ヨーグルトや豆乳、チーズを加えるなどして工夫。関係者や食品専門家らに試食してもらい商品化した。

販売するのは、ヨーグルトと粉チーズを混ぜた「洋風」、豆乳やクルミを入れた「和風」、帆立貝を加えた「帆立」の3種類。同施設は「アントシアニンいっぱいのヘルシー食品。さっぱりした酸味で野菜や鍋物などに幅広く使える」としている。

価格は「洋風」と「和風」が980円、「帆立」は1300円（いずれも180ミリリットル）。いちごの家（086-697-5512）で取り扱う。月曜と日曜、祝日休み。

## 佐賀市で「障害者差別解消法」フォーラム 「知ろう」の気持ち育成を



佐賀新聞 2018年2月7日  
障害者の差別の解消に向けた取り組みや視点について意見を交わしたパネルディスカッション＝佐賀市天神のグランデはぐくれ

2016年4月に施行された「障害者差別解消法」を考えるフォーラムが5日、佐賀市で開かれ、弁護士が法律の概要を解説し、当事者らを交えた意見交換があった。佐賀県調査で61・5%が法律を「知らない」と回答した実態を踏まえ、啓発とともに、相手の希望や思いを知ろうとする気持ち

を育てる大切さを指摘する声が続いた。

5人が登壇したパネルディスカッションでは、障害者支援のNPO代表の芹田洋志さん（鳥栖市）が、相談窓口だけでなく「対話を深めるためのアウトリーチ（訪問支援）や、仲介できるコーディネーターがいたら」と指摘した。県自閉症協会会長の赤瀬満博さんは「何かできることがないか一人一人考え始めることが大事」と語り掛けた。

兵庫県明石市の担当課長は、法律を読むだけでは理解が難しい「合理的配慮」を具体化する取り組みの一例として、飲食店などが「点字メニュー」「筆談ボード」などの作成・購入費の助成制度を全国に先駆けてつくったことを紹介した。初年度（16年度）は100件を超える活用事例があり、本年度も継続している。

フォーラムは内閣府と佐賀県が主催し、行政関係者や当事者団体のメンバーら約140人が参加した。

## 車いすの大学生、消えぬ劣等感「不安しかない」

神戸新聞 2018年2月7日

左手の中指でレバーを操作して電動車いすを動かす＝三田市内



兵庫県三田市内の大学に通うリョウさん（19）＝仮名＝は電動車いすで生活している。小児脳性まひのため、体全体がうまく動かさない。友達とゲームや漫画の話で盛り上がるなど楽しい学生生活を送っているが、「心の中にはずっと、体に対するコンプレックスがある。将来は不安しかない」と目を伏せた。

物心ついた時には車いすでした。小さい頃は、外で走り回る子どもを見て「何で僕だけ…」って何度も思いました。「（障害は）個性やから」と言う人もいたけど、何が個性なのか分からなかった。いつの間にか、いろんなことを諦めてました。

小学校は特別支援学校で、中学は普通の学校に行きました。小さい時は、僕のことを珍しくて寄ってきてくれる子もいました。でも中学は自分から声を掛けないと友達はできません。クラスでは空気みたいな感じ。一緒に外に遊びに行けないのも分

かっていたので、自分から声を掛けられなくて。休み時間はほとんど、教室で本を読みました。

高校は入寮制の特別支援学校に進学しました。僕、本当に1人で何もできなかったんです。服を着るのもトイレに行くのも。母親に「自立しないと将来どうするの」と言われて、仕方なく寮に入りました。起床や就寝、食事の時間まで決められていて本当に嫌だったけど、寮に入っていなければずっと親に甘えたままだったでしょうね。

障害者は高校卒業後、作業所に勤める人が多いんですけど、将来を先延ばししたくて大学進学を目指しました。そこにも壁があって、ある大学のオープンキャンパスに行った時、「障害者の設備がありません」と受験もしてないのに断られたんです。悔しかった。同じ人間で、同じように勉強を頑張っても受け入れられない。克服したはずのコンプレックスが、大事な時に立ちふさがります。

救いになったのは会員制交流サイト（SNS）。生い立ちや悔しい思いを書くと、たくさん反応があって。中には家族関係に悩む人や、いじめで学校を休んでいる人もいて「自分だけが不幸じゃない」と思えるようになりました。

大学では、友達とキャンプに行ったり、興味のある勉強をしたり、毎日楽しいです。周りにしてもらいながら、1人でバスや電車に乗って通学できていますし。まだ1年生ですけど、就職活動を考えると、雇ってくれる会社があるのかと不安になります。体が不自由な上に、アルバイト経験もないですからね。

結婚もしたいですね。でも僕、好きな人ができても、負い目を感じて告白できないんです。自分が家族に支えられてきたので、懂れてるんですけど。（山脇未菜美）

■大学生活はどんなふう楽しんでる？

- ・髪を茶髪に染め、好きな服着ておしゃれする
- ・休み時間、友達と携帯ゲームをして遊ぶ
- ・興味のある自然人類学やアートの授業を受ける

## 国内初認定を正式発表 静岡文化芸術大「フェアトレード大学」



静岡新聞 2018年2月7日  
鈴木康友市長に国内第1号のフェアトレード大学認定を報告する横山俊夫学長（中央）ら＝6日午前、浜松市役所

静岡文化芸術大（浜松市中区）は6日、市役所で記者会見し、アジア初で国内第1号となる「フェアトレード大学」に認定されたと発表した。市も昨年11月に国内4都市目のフェアトレードタウンの認証を得たばかりで、鈴木康友市長に認定を報告した横山俊夫学長は「大学と都市がともに認定を受ける

のもアジア初。市と大学が両輪となっていくことが大切」とさらなる地域連携を提案した。

フェアトレード大学認証は、開発途上国の生産品を適正価格で取引するフェアトレード運動に取り組む大学を認める制度。国内認定団体が1日の理事会で、学生の普及活動や憲章策定など五つの要件を同大が満たすことを認めた。学生団体による障害者雇用や地産地消も意識した多角的な活動や、学生自らが考案したフェアトレード憲章が評価された。

現在複数の大学が申請に関心を寄せているという。

2011年に活動を始めたサークル「りとるあーす」の日比野都麦代表（20）＝国際文化学科2年＝は「先輩方の活動や努力が認められた。初の認定大学の学生として他大学との関わりを求めていく」と話した。横山学長は地域連携を見据えて「匿名の関係性が広まる中、もう一度顔の見える人間関係を作るという文化的な意味がある。（認定により）大学が丁寧な暮らし方を広める中心的な場所になれば」とした。学会参加者らにフェアトレード食材を使った食事の提供やドリップコーヒーなどのノベルティ開発、市民向け公開講

座など多角的な活動を検討していく。

## 個人情報紛失 懸賞当選者など 阪急阪神HD子会社 /大阪

毎日新聞 2018年2月6日

阪急阪神ホールディングス子会社の「あしすと阪急阪神」(大阪市北区)は5日、阪急電鉄が実施したプレゼントの当選者リストなど9184件の個人情報を記録したUSBメモリーを紛失したと発表した。同社は障害者を多く雇用し、グループ会社の事務作業などを受注している。



## 放課後デイ 事故急増 16年度、67自治体で965件

毎日新聞 2018年2月6日

車座になって今日の出来事を報告し合う利用生徒と職員たち=東京都江東区で、山田泰蔵撮影

障害のある子ども(6~18歳)が利用する「放課後等デイサービス」(放課後デイ)で、事故が急増している。毎日新聞が都道府県など67自治体にアンケートしたところ、2016年度に少なくとも965件発生。17年度も11月末時点で691件と1000件を超えるペースだ。背景には、新規参入事業者が相次ぎ、サービスの質の確保が追いついていない状況がある。

各事業者には事故があれば都道府県・政令市・中核市に報告するよう義務づけられている。毎日新聞は昨年12月、計69自治体に対して報告件数を聞き、岩手、山形両県を除く67自治体から回答を得た。

16年4月~17年11月分の計1656件の内訳は、骨折や打撲などのけがが最も多く1010件。次いで、行方不明126件▽従業員の不祥事41件▽誤飲・誤食38件▽虐待37件▽食中毒・感染症34件ーなど。

障害の有無にかかわらず児童を受け入れる放課後児童クラブ(学童保育)などでは、国が重大事故情報を集約して検証する仕組みがある。だが、放課後デイでは自治体への報告を求めるだけで、それも不十分さがうかがえる。東京都は15年度に報告徹底を周知したところ、16年度の報告は2.5倍に増加。横浜市も、事業所職員による利用児童へのわいせつ事件を受けて指導を強化したところ、15年度には前年度の6倍、16年度も2倍に増えた。

子どもの事故に詳しい「緑園こどもクリニック」の山中龍宏院長は「国で情報を集積して検証し、再発防止に役立てることが重要だ」と指摘する。

### 【ことば】放課後等デイサービス

放課後や休日、夏休みなどに利用する障害児支援サービス。身近な地域で生活するのに必要な生活能力を養うのが狙い。「放課後児童クラブ」と形態は似ているが、中高校の生徒や特例で20歳未満まで利用できる。利用者には知的障害や発達障害の子どもが多い。利用者負担は原則1割で、残りは税金で賄われる。

## 大阪)住吉市民病院の機能継続訴え まもるママの会 左古将規、半田尚子

朝日新聞 2018年2月7日

今年3月に閉鎖する大阪市立住吉市民病院(住之江区)の利用者らが先月、「住吉市民病院をまもるママの会」を設立し、6日、市役所で記者会見を開いた。これまで同病院が担ってきた「家族の付き添いなしの入院」や「重症心身障害児の短期入所」といった機能を新センターなどが確実に引き継ぐよう訴えた。

代表の安達明日香さん（35）によると、会には同病院で出産した母親や、子どもに障害がある母親ら約50人が加わった。安達さんは「シングルマザーや仕事を持つ親にとって、付き添いなしでも入院を受け入れてくれる機能はなくてはならない」「重症心身障害児の行き場がなくなってしまうことがないように」などと訴えた。今後、署名も集めるとい



う。  
住吉市民病院の機能継続を訴えて記者会見する「住吉市民病院をまもるママの会」代表の安達



明日香さん（左から3人目）ら＝6日午前、大阪市役所、左古将規撮影

住吉市民病院は今年春、府立急性期・総合医療センター（住吉区）に統合し、「府市共同住吉母子医療センター（仮称）」が新設される。住吉市民病院の機能は新センターが引き継ぐ。

## <ともに>認知症 理解深める契機に 白球追い「距離」縮める



東京新聞 2018年2月7日  
試合終了後、野球部員たちと試合を振り返る鈴木泰弘さん（左）＝名古屋市北区の八王子中学校で

認知症になると、長年親しんできた野球などのスポーツを続けられなくなってしまうことが多い。練習の日時や場所を覚えられなくなったり、ルールが分からなくなってしまうからだ。一月中旬、名古屋市北区の八王子中学校で認知症の人たちと同校の野球部員たちが、ソフトボールをして交流した。認知症の人が試合中に戸惑わないように部員たちがさまざまな工夫を凝らし、参加者全員がはつら

つとプレーした。（出口有紀）

「ナイスピッチ！」。若年性認知症の鈴木泰弘さん（54）＝名古屋市中川区＝がマウンドから投球すると、部員たちの元気な声がグラウンドに響く。安心したように、鈴木さんが次の球を投げようとする、部員が走り寄り「ここです」と白線を指さし、正しい位置に誘導。鈴木さんはまた投球に集中した。

「少しのサポートがあれば、プレーできる。特に若年性認知症の人は、体が元気だし、家にこもってばかりになるのはもったいない」。若年性認知症の人と家族の交流会「あゆみの会」を担当する市認知症相談支援センターの職員で、試合を企画した鬼頭史樹（ふみき）さん（37）は話す。

鈴木さんは、データベースの作成などをする会社に勤務していた。仕事の約束を忘れるなどミスが続き医療機関を受診したところ、二〇一四年三月にアルツハイマー型認知症と診断され、一六年四月に退職した。

もともと野球が好きで、地元の草野球チームに入っていたが、チームは野球人口の減少もあり解散。今は日常的にプレーする機会がない。自宅近くのバッティングセンターで汗を流すこともあったが、帰り道に迷ったこともあり、行かなくなった。

退職後に入会したあゆみの会には、鈴木さんの他にも野球好きな五十～六十代の認知症の男性がいた。そこで、毎年三月に静岡県富士宮市で開かれる認知症の人と家族、支援者

によるソフトボール大会「全日本認知症ソフトボール大会」に参加するなどしている。しかし、活動は日常的ではないため、鈴木さんは「野球のルールは分かるし、体も動くから、もっと野球をしたい」と、鬼頭さんに相談した。

今回は、あゆみの会の交流会場がある北区役所に隣接する八王子中に声を掛けた。同校では本年度、年間を通し、さまざまな障害がある人との関わり方を学ぶことにしており、同会の提案を即座に快諾した。

試合当日は、野球部の一、二年生計十九人と認知症がある四人のほか、家族、支援者らも加わり総勢三十五人ほどが二チームに分かれてプレー。部員たちは、「一塁」などと大書したホワイトボードを各塁の近くで掲げ、バットにボールを当てて、一塁でなく二塁に向かって走りだす人がいると「一塁、こっちです」と声を掛けた。試合球は、当たっても痛くない柔らかいボールを使った。こうした工夫は全て、部員たちが知恵を出し合って考えた。

鈴木さんは三回で計六十球ほどを投げた。ヒットも打ち、出塁すると満面の笑みを浮かべた。「昔ほど球にキレがなくなっただけけど、投げ通せたのは、みんなが手加減してくれたから。自分が一番分かっている。でも、楽しかった」。試合終了後、部員たちに感謝を伝えようと、握手する手に力を込めた。

ホワイトボードで塁を示すことを提案した一年の井筒誠人（せいと）さん（13）は「最初は接しにくいかもしれないと思ったが、話したら親しみやすくてやさしかった」と笑う。顧問の



森正佳さん（29）は「認知症の人と距離を縮めるためにどうすればいいかを、自分たちで考える気持ちが出てきたのでは」と、部員たちの成長に目を細めた。昨年9月に千葉県内であった「RUN伴」で、たすきをつなぐために走る参加者たち＝千葉県内で（NPO法人認知症フレンドシップクラブ提供）

#### ◆スポーツで地域と接点

認知症になり、スポーツを続けられなくなる人は多いが、認知症介護研究・研修大府センター研究部長で、神経内科医の小長谷（こながや）陽子さん（67）は「今までの生活を維持して、好きなこと、楽しいことをすること自体がリハビリになる。体を動かすスポー

ツはいい」と話す。一方、認知症の人と一緒にプレーする周囲の人には「病気について学ぶことが欠かせない」と求める。

小長谷さんは「認知症の人はルールが分からなくなり、守れないことがある。周囲が病気の原因や特性を分かっていると、サポートは難しい」と話す。特に若い世代には、認知症の人と接したことがない人が多く、理解を深めることが大切という。

今回のソフトボールの試合では、部員たちは昨年十二月下旬、八王子中で開かれた「認知症サポーター養成講座」に参加した。鈴木さんも今の生活や野球への思いを語り「昔は、最高百二十キロくらいは出た。みんなも出るだろうけど」と笑いを誘った。鬼頭さんは「症状は一人一人違う。様子を見ながら対応を考えると、いい笑顔がたくさん出てくる」と呼び掛け、部員たちの理解を促した。

講座を受けた部員たちは冬休み中に、皆で楽しめる方法やルールをそれぞれ考え、試合前に話し合った。キャプテンの二年大橋憲慎さん（14）は「身近に認知症の人がいないので、ニュースで徘徊（はいかい）の話題を見て、本当にすぐ物忘れをする人なんだと思っていた。でも、実際に接してみると、多少分からないことがあっても、こちらが声を掛ければ理解してくれた」と話す。

認知症の人と地域の人がスポーツを通して触れ合うイベントなどは、増えつつある。認知症の人と家族、地域住民らが一緒にたすきをつなぎ、走ったり歩いたりするイベント「RUN伴（ランとも）」もその一つ。認知症の人が暮らしやすいまちづくりを目指すNPO法

人「認知症フレンドシップクラブ」(東京都武蔵野市)が企画し、各地の実行委員会と協力して開いている。

参加チームごとにたすきをつないで他チームと競争するのではなく、参加グループが自分たちの受け持つ距離を走ったり歩いたりして、次のグループにたすきをつないでいく。全区間を参加者全員でたすきをつなぐのが特徴だ。

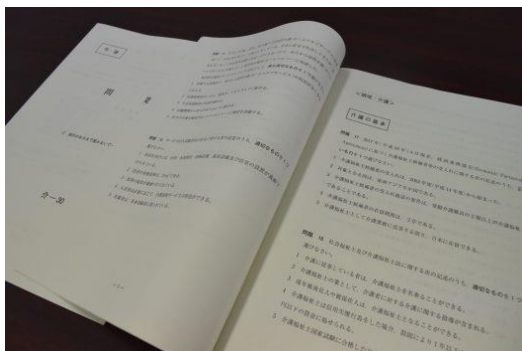
二〇一一年、北海道で百七十一人が参加して始まり、開催ごとに参加者が増え、全国各地で実行委が組織され開催されるようになった。一七年は三十三都道府県の三百四十一市区町村で開かれ、計一万四千五百二十一人が参加。その一割ほどが認知症の人だった。

一グループは三人以上で、施設職員と利用者で参加する例もある。認知症の人も必要なケアや支援を受けながら、決められた距離を歩いたり、走ったりして楽しんでいる。

小長谷さんは「一回限りではなく、継続的に出掛けられるような場にするのが大事」と言う。同法人理事の徳田雄人(たけひと)さん(39)は「認知症の研修会はよくあるが、当事者との接点が乏しい会もある。認知症の人が本当に困っていることが分からないままでは、暮らしやすいまちにはつながらない」と話す。

各地の実行委員会の中には、イベントでできたつながりを生かし、認知症の人も一緒に楽しめるソフトボールや登山、コンサートなどのイベントを企画するところも出てきた。徳田さんは「認知症がある人との接点をつくり、地域で暮らす上での困りごとを共有していきたい。RUN伴をきっかけに、各地域で当事者の声を聞き取れる環境が整っていくといい」と話す。

## 2017年度介護福祉士国家試験終わる 問題を全文公開



福祉新聞 2018年02月07日 編集部

第30回介護福祉士国家試験が1月28日に  
行われ、社会福祉振興・試験センターは31日、  
受験者数が9万2654人(速報値)だったと  
明らかにした。前年に比べ1万6331人増え  
た。

今回から介護福祉士養成施設卒業生も原則と  
して受験することになったが、現時点では何人  
受験したか分からない。

従来、介護福祉士養成施設の学生は卒業する  
ことで介護福祉士を取得できたが、社会福祉士及び介護福祉士法の改正により、今年度の  
卒業生からは国家試験に合格することが条件になった。

ただし、経過措置があるため受験しない人もいる見込み。2022年度の卒業生からは  
経過措置もなくなるため、試験に合格することが不可欠になる。

養成施設関係者の間では「今回は卒業生の8割程度は受験しているのではないか」とみ  
られている。

また、社会福祉士の試験日は例年、介護福祉士と同じ日だったが、今回から1週間後  
にずれた。試験日が同じだと1人の受験者が介護福祉士と社会福祉士の試験を受けることが  
できなかったが、今回からは二つ受験できる。

精神保健福祉士の試験日も例年より1週間後になった。

### 介護福祉士国家試験問題

人間の尊厳と自立	人間関係とコミュニケーション	社会の理解	介護の	
基本	コミュニケーション技術	生活支援技術	介護過程	発達と老化
の理解	認知症の理解	障害の理解	こころとからだのしくみ	医療的
ケア	総合問題			

## 子どもの貧困、学習支援を ボランティア養成セミナー NPOなど初主催

東京新聞 2018年2月7日

子どもの貧困問題を考える学習支援ボランティア養成セミナー「困難を抱える子どもたちを支えるため～今、あなたの力が必要なとき」が十四日午後六時半から前橋市新前橋町の県社会福祉総合センターで、三月三日午後三時から高崎市中大類町の高崎健康福祉大で、同十日午後一時から太田市役所で開かれる。参加無料。

県内の教育関係者らでつくるNPO法人「教育支援協会北関東」（前橋市）などが、学習支援によって貧困の連鎖を断ち切ろうと初めて主催する。NPOは地域子ども教室や自然体験活動などを企画している。

セミナーではまず、NPOの全国組織である教育支援協会（東京）の吉田博彦代表理事が「寄り添い型の学習支援とは。そしてボランティアの必要性」と題して基調講演。吉田代表理事は早稲田大を卒業後、学習塾を運営し、文部科学省の委員やアドバイザーなどを務めた。

続いて、学習支援のボランティアをしている県内の学生らが実践報告し、最後に県内の各学習支援団体や行政担当者が「地域で支えることとは。ボランティアの意識改革」とのテーマで討論する。三会場とも基本的に同じ内容となる予定。

定員は各六十人。事前予約が必要で、先着順に受け付ける。問い合わせは教育支援協会北関東＝電027（226）6731＝へ。（菅原洋）



## 施設児童就職予定者研修会 施設巣立ち就職、応援 1 2回にわたり各種 天王寺 /大阪

毎日新聞 2018年2月6日

就職予定者らを激励しようと演奏する大阪府警音楽隊＝大阪市天王寺区のシェラトン都ホテル大阪で、島田和也撮影

今春、就職などで児童福祉施設を巣立つ中高生らを対象にした「施設児童就職予定者研修会」（大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、府社会福祉協議会児童施設部会、毎日新聞大阪社会事業団主催、シェラトン都ホテル大阪協力）が4日、大阪市天王寺区の同ホテルで開かれた。

## 阪急、西宮北口に子育て施設

日本経済新聞 2018年2月6日

阪急電鉄は6日、阪急神戸線「西宮北口駅」に子育て支援施設を12月に開業すると発表した。駅の高架下に認可保育所を新設するほか、学童保育を近隣の商業施設から移設する。大型商業施設や学習塾が充実している西宮北口は子育て世代に人気が高まっており、住民増に対応する。好評なら他の沿線や駅に広げる。

新設する「西宮北口こどもの園（仮称）」は社会福祉法人みかり会（兵庫県南あわじ市）が運営する。定員は50人で0～5歳児が対象。保育時間は平日が午前7時～午後9時、休日保育は未定という。学童保育は阪急阪神ホールディングスのグループ会社が運営し、約50人の小学1～6年生を受け入れる。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行